

25. ^{81m}Kr ガスによる肺吸入スキャン(その2)

—局所肺機能評価の試み

小林 英敏 佐々木常雄
改井 修 小原 健
松原 一仁 大野 晶子
真下 伸一

(名大・放)

^{81m}Kr ガス, LFOV シンチカメラおよびシンチパック 200 を用いて, 被験者を坐位とし, 前方および後方より各々 1 回呼吸法により肺シンチを行ない, これを単純写真と比較した. また, 肺野を四分割し, おのおのの区画の 0.5 秒間の RI カウントを読み出し, これより呼出期の RI カウントの減少率, すなわち, RI の「呼出率」を計測した. これは区画の容積減少率, すなわち, 局所の時限肺活量に相当し, これを左右で比較した.

正常例 1 例, 原発性肺癌 1 例および肺転移 2 例の 4 症例につき検討し, RI の「呼出率」は局所の肺の換気能, 閉塞状況の程度によく相関があることがわかった.

26. 頸部リンパ節シンチグラフィーの検討

○仙田 宏平 金子 昌生
真野 勇 高橋元一郎
(浜松医大・放)
白石 輝雄 椎名 睦郎
(聖隷浜松病院・耳)

リンパ節シンチグラフィーは, 手技が簡便で,

患者への侵襲がほとんどないなどの理由で, 容易に施行できる長所がある. しかも, 本検査法は, 皮下注射の部位を変えるだけで, 全身の主なリンパ節群の描画が可能となる大きな利点がある. しかし, 本検査法は, 解像力が低いなどの欠点のため, 従来普及されるに至っていない. そこで, 今回, 理学的所見との対応がしやすい頸部リンパ節について, 本検査法の基礎的な問題を検討したので, 若干の臨床的検討を加えて報告する.

対象は頭頸部癌などの患者 19 名で, これら患者に計 22 回の検査を行なった. 放射性医薬品として, ^{198}Au コロイドと 3 種の ^{99m}Tc コロイド製剤を使用した. これらの内で ^{99m}Tc フチン酸が最も良い画像を示した. 皮下注射部位は頭頂部 1 カ所またはこの両側 2 カ所とし, 後者でより安定した画像が得られた. 皮下注射に際し, 局所麻酔を必要とするほどの疼痛はなかった. また, 注射後炎症など副作用は発現しなかった. 検査開始時間は, ^{198}Au コロイドで 24 時間以後が適当であったのに対し, ^{99m}Tc フチン酸では 2~3 時間後と短かった. 撮像方向として, ^{99m}Tc コロイド製剤使用例では, 両斜位が両側のリンパ節を分離し, かつそれぞれ明瞭に描画する上に有用であった. 臨床上, 理学的所見と比較的よく一致する種々の画像パターンを観察できたが, 中でも, 2 例の ^{99m}Tc フチン酸使用例で, 頭部のリンパ管影の出現が認められた.

このページの訂正

訂 正

16巻2号掲載の地方会抄録表示に誤りがありましたので, 下記の如く訂正いたします.

第3回日本核医学会北日本地方会→

第4回日本核医学会北日本地方会